

令和4年度 板橋区立志村第二中学校 授業改善推進プラン

教科名

保健体育

	学力調査・体力調査・定期考査等の分析	指導方法の課題	授業革新に向けての具体的な手立て
7 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンドボール投げの記録が低い。小学校ではソフトボール投げを行っており、ボールの大きさや重さが変わったことが思ったように投げることができない原因と考えられる。 ・定期考査は全体的に平均点が高く、よく勉強していた。思考・判断・表現の記述問題のできがあまり良くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい」と「振り返り」の関係を見直す。生徒に明確に「ねらい」を提示し、「ねらい」に沿った「振り返り」を行う事で授業のつながりや単元のつながりを意識させる。 ・ICT器機を用いて、主体的に学習に取り組む態度を養い、客観的に自己の技能を振り返る機会を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能の習得だけでなく、何故これを行うのかなどの意味を考えさせ、取り組ませる。 ・ICT機器を用いて、互いに自己の技能を振り返り、課題解決の方法を見いだす活動を行う。 ・学習カードの内容を見直しさせることで、振り返りを充実させ、自己の表現で記述できるようにする。
8 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・持久走の成績があまり良くない。コロナ禍で部活動や活動が制限されていることもあり、運動量が減っていることが原因だと考えられる。 ・定期考査は全体的に平均点が低く、あまり勉強していない様子がうかがえた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい」と「振り返り」の関係を見直す。生徒に明確に「ねらい」を提示し、「ねらい」に沿った「振り返り」を行う事で授業のつながりや単元のつながりを意識させる。 ・短い時間でも運動量を確保できるように授業内容を工夫をする必要がある。 ・一人ひとりが主体的に取り組めるように興味関心を高めることができるICT機器を用いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具や教場の工夫、ペアやグループの工夫を行うことで、一人ひとりの活動時間を確保し、より多くの運動量を確保する。 ・集合、整列などの授業規律を徹底し、無駄な時間を省くことで授業時間を確保する。 ・「ねらい」と「振り返り」を意識させ、一つひとつの活動に明確な意味を持たせることで質を高める。 ・ICT機器を活用し、互いの課題を見つけ、改善することで主体的に活動に取り組み、興味関心を高める。
9 学 年	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストに取り組む姿勢は良好である。持久走は全体的に遅いが、中学生として初めて走ったので、自分の目安が作れなかったことが原因と考えられる。握力は向上が見られるが、ハンドボール投げの記録は伸びない。女子の一桁台の生徒は、投げ方にも課題が見られる。また男子の力のある生徒のファールが多々見られた。 ・定期考査への取り組みは、全体的には良好だが、二極化が目立ち、結果にも当てはまる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ねらい」を明確にし、効率の良い授業展開にしたい。協働学習の導入は大切な学びの場であるが、話し合いが円滑にいくように、適切な声かけをしたい。 ・水分補給はタイマーで切るなど、切りかえを大切にしたい。 ・用具をうまく活用し、感染症対策は怠ることなく学習環境作りをしたい。 ・ICT機器を活用し、生徒の意欲を高め、主体的な学習態度を身に付けさせたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技については、もっと自分たちのフォームチェックをするためにICT機器を活用し、お互いに課題を発見し、解決に向けた方法を考える力を育みたい。また、座学の時に、理想的フォームや、単元の手立てになるような動画を視聴させたい。 ・保健や体育理論については、ICT機器の活用はもとより、身近なこととして感じられるように話し合い活動を積極的に入れたい。 ・活動と評価と支援の一体化を計りたい。